

いただいたご質問・ご意見に対する回答

■ご質問

No.	ご質問内容	回答
1	JSでは、女性社員は多く働いていらっしゃいますか？	女性も多く働いております。近年女性の入社が増加しており、2021年4月入社予定の新入社員54名のうち、26名が女性です。 現在JSにおいては15名の日本女子大学卒業の女性が働いており、それぞれの職種において活躍して頂いております。 なお、JSでは「ダイバーシティ」を推進しており、性別や年齢等に関わらず「やりがいを持って生き活きと働ける組織」を目指してワーキング等様々な取り組みを行っております。
2	JSでは、女性はどのようなお仕事をなさっていますか？	JSではあらゆる部署において女性が活躍しております。 JSは2021年に会社創立60周年を迎え、UR賃貸住宅と分譲マンションを合わせ約90万戸にのぼる豊富な管理実績を有しております。窓口対応や敷地内清掃、ライフライン維持や緊急事故対応等快適な団地住まいを身近にサポートする「マンション管理事業」、退去後の住宅をより快適な状態へと回復する補修工事などを行う「住宅リニューアル事業」のほか、大規模修繕工事等「ストック改修事業」、団地にお住まいのお客様の様々なニーズにお応えする「生活サポート事業」、快適な暮らし実現のための技術開発及び調査研究を行う「技術サポート事業」の5つの業務に加え、当社が培ってきた技術力やノウハウを資源として、生活支援、コミュニティの拠点づくりや各種商業施設の運営等を通じ、価値ある住環境及びサービスの提供並びに地域が抱える課題解決に向けた新たな取り組みを行っています。 以上のようにJSの業務は多岐にわたっておりますが、多角的な視点を持った女性の活躍が非常に重要な力となっています。モチベーションが高く、現場で仕事をしたい社員の多いことがJSの特徴でもあり、自由闊達な風通しの良い社風になってきています。
3	JSコンペの施工に学生は関わるのですか？	過去開催のリノベーションコンペティションにおきましては、直接、工事や施工管理に関わることはありませんでしたが、学生の方から提案いただいた空間がどのように仕上がっていくか、現場の雰囲気を知ってもらうために、中間検査などに参加して頂きました。また、モデル住戸として公開する際に、家具の選定やレイアウトをお願いした物件もございます。
4	団地エリアでの設計課題に取り組んでおり、興味深く拝聴しました。長くある団地では高齢化などの問題もありますが、こどもや子育て世代にとっての、団地という環境でのメリットや、これからの展開などがあれば、何かお聞かせいただければと思います。	緑が多く、車の通行を気にせず子どもを遊ばせることができる公園が存在する団地も数多くあり、このような豊かな環境の中で子育てを行うことは大きなメリットであるといえます。JSでは地域社会貢献活動として、2016年11月よりNPO法人と協同し、大阪にて「JSあつぷるはうす」を運営しております。団地の集会所にて様々なイベントを開催し、団地及び近隣住居の子育て世代の親子が安心してコミュニケーションを図れる気軽な交流の場としての機能を果たしています。 また2018年からは、小学生を対象としたアフタースクール（民間学童保育）「J Smile Kids（ジェイスマイルキッズ）」を首都圏に2校開校しています。（株）明光ネットワークジャパンの協力のもと、宿題サポートや英会話など充実した放課後時間の提供により、子どもの成長や親御さんにとって安心な就労環境のサポートに取り組んでいます。 なお、JSでは次世代育成支援として、1996年より中学校の技術・家庭科の授業で活用できる副読本『考えよう！わたしたちの快適な住まい』を制作しており、デザインや間取りの意味、安全性や環境への配慮等住まいに関する様々な情報提供を行っております。
5	コミュニティーの作り方はとても楽しくワクワクしながら拝聴しました。ありがとうございます！とはいえ男性は地域になじまないという話もでしたが、コミュニティーが苦手な方もいるのかと思います。団地の中でプライバシーの守る住まい方の提案などもあるのでしょうか。ちょっと今日の話とはずれるようなのですが。	日本の集合住宅団地は、基本性能として個人のプライバシーが守られることを重視して作られております。しかしその反面、昨今ではコミュニティの希薄化や孤独死といった問題が社会的課題として浮き彫りになっています。団地における自治会活動や多世代交流が活発になると、見慣れぬ人や不審者に対する声掛けが実践されることで犯罪の抑制につながるという傾向があることから、「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち（ミクストコミュニティ）」の形成が、団地全体のプライバシーを守ることにもなるといえます。多世代間交流を積極的に進めるとともに、個人のプライバシーを守りながらも最低限の連携を保っていけるような仕組みや孤立しないような仕組みを団地全体で作っていく必要があると感じております。 また、ハード面におけるプライバシーを守る住まい方といった観点においては、生活音が響くことによるプライバシーの漏洩を防ぐことを可能とした、畳と同等以上の遮音性能（軽量床衝撃音）を確保した「JSソフトフローリング」の開発をはじめ、プライバシーを守る住まい方のための様々な商品開発を進めております。
6	コロナを通じて、人との関り方、社会の在り方などが変化していくと思いますが、それに応じて、これからの団地をどの様に変えていくべきか、お聞きしたいです。	JSでは2030年を見据え、AIやIoTを集合住宅団地で展開する研究を進めておりますが、コロナ禍の状況の中でデジタル推進の流れがはやまっています。コロナ禍の状況の中では在宅にてリモートワークをする機会も多くありましたが、例えば団地の集会所の中にコワーキングスペースがあれば、新しいワークスタイルの実現が可能となり、ウィズコロナ、アフターコロナ時代における働き方、そして住まい方のニューノーマルをご提案できると考えております。世の変革の流れに乗り遅れることのないよう、JSにおいてもデジタルトランスフォーメーション（DX）で業務改革を行いながら、集合住宅団地におけるデジタル化、スマート化を提案していきます。 また、これからの団地をどのように変えていくかということは、まさに寄附授業において検討すべき内容であるといえます。この授業を受講してくれる学生の皆さんと一緒に、知恵を出し合っていきたいと考えております。
7	この寄附授業に興味を持ったのですが、授業の中では実際に団地に行ったり、地元の方の話をお聞きすることが	2020年12月3日に開催いたしますオンライン見学会では本学学生対象でヌーヴェル赤羽台の団地見学を実施いたします。また、2021年度からの寄附授業では、学生が希望する団地の見学も予定しています。

■ご意見

No.	ご意見内容	回答欄
1	<p>女性は一般的に社会性が高く、高齢化しても近隣の方等と良好なコミュニティを形成して活動されることが多い傾向にあるのに対して、高齢男性(特に会社で管理職だった方等)はあまり社会参加しようとしなない傾向があります。今後は、高齢男性をいかに地域のコミュニティ活動に参加させるかが団地のみならず日本全体の大きな課題ではないかと思います。ちなみに、関西のある団地では自治会が集会所でお酒を飲める機会を設けて高齢男性から好評を得ているケースもあるようです。</p>	
2	<p>ご回答ありがとうございます。なるほど、コミュニティは無理強いではなくて、まずは孤立しないというキーワードが第一なのかと思いました。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。</p> <p>超高齢化や少子化、コミュニティ形成等、団地では様々な課題を抱えており、まさに「団地は日本社会の縮図である」といえます。JSでは、「団地が元気になれば地域全体、更には日本全体が元気になる」という強い思いを持ち、多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちづくりを目指す「ミクストコミュニティ」の活動や集合住宅団地の価値向上につながる活動、団地活性化イベントの運営等、様々な取り組みを通じ、社会貢献活動に継続して携わってまいります。</p> <p>また、当寄附授業により、住まいや生活環境等に関する大学の専門的な知見、学生の感性やアイデア、JSの実践フィールドである集合住宅団地を掛け合わせ、社会課題の解決を目指していきたいと考えております。</p>
3	<p>感想になってしまいますが、失礼します。</p> <p>貴重な講義ありがとうございました。お話を聞いて、改めて血縁外のつながりがこれから先重要になっていくのだろうな、と思いました。核家族が限界を迎える上、独居老人も増えていくこれからの見据え輪から外されてしまうような人もゆるく繋げていくような空間、ソフト的な仕組みが大切になっていくのだと思いました。</p>	